

科目名	簿記入門Ⅱ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping Ⅱ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	よしだ かつひろ	開講時期	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	吉田 勝廣	修得単位	4単位
授業のテーマ	株式会社会計を理解し、日商簿記検定2級を受験してみよう		
授業概要	本講義では、「簿記入門Ⅰ」の続きなので、株式会社会計（日商簿記2級商業簿記）について、分かりやすく丁寧に解説するとともに、説例や「練習問題」を多く取り入れ、株式会社の会計処理を実践的に理解できるようにする。		
到達目標	「日商簿記2級の商業簿記」に合格できる水準の知識の習得を目標にしている。		
授業時間外の学習	簿記の技術を身につけるためには、練習問題や応用問題を繰り返し、繰り返し解くことによって、知識が定着し「日商簿記検定2級」の合格に必要な知識を身につけられる。		
履修条件	日商簿記3級程度の知識が必要である。		
授業計画			
第1回	ガイダンス:小テスト終了後、解説	第17回	株式会社会計Ⅰ:株式会社とは、会社を設立した株式等
第2回	諸取引の処理Ⅰ:銀行勘定調整表、売買目的有価証券(時価法)等	第18回	株式会社会計Ⅱ:繰越利益剰余金、純資産会計、株主資本等変動計算書等
第3回	諸取引の処理Ⅱ:債券の端数利息の処理、クレジット売掛金等	第19回	本支店会計Ⅰ:本支店間の取引
第4回	諸取引の処理Ⅲ:営業外支払(受取)手形、手形の更改等	第20回	本支店会計Ⅱ:本支店会計(帳簿上の決算手続き)
第5回	諸取引の処理Ⅳ:電子記録債権、電子記録債務、商品保証引当金、退職給付引当金等	第21回	外貨建取引の換算:前払金の支払時と前受金の受取時の仕訳、輸入時(輸出時)の仕訳等
第6回	売買取引の処理:仕入および売上の割引、棚卸減耗、商品評価損等	第22回	精算表の作成Ⅰ:決算手続と精算表
第7回	固定資産Ⅰ:有形固定資産の割賦購入、圧縮記帳等	第23回	精算表の作成Ⅱ:財務諸表(損益計算書と貸借対照表)の作成
第8回	固定資産Ⅱ:建設仮勘定、減価償却、定率法、生産高比例法等	第24回	連結会計Ⅰ:親会社と子会社、連結財務諸表

第9回	固定資産Ⅲ:固定資産を改良と修繕、無形固定資産等	第25回	連結会計Ⅱ:内部取引高と債権債務の相殺消去、貸倒引当金の修正等
第10回	研究開発費とソフトウェア	第26回	連結会計Ⅲ:内部取引高と債権債務の相殺消去、貸倒引当金の修正等
第11回	固定資産Ⅳ:その他の有価証券、償却原価法(定額法)等	第27回	税効果会計と貸倒引当金の繰入限度超過額
第12回	固定資産Ⅴ:200%定率法、仕訳等	第28回	日商簿記2・3級模擬試験(1)
第13回	リース会計Ⅰ:リース取引とは、ファイナンス・リース取引の処理等	第29回	日商簿記2・3級模擬試験(2)
第14回	リース会計Ⅱ:オペレーティング・リース取引の会計処理等	第30回	日商簿記2・3級模擬試験(3) ※受講生の理解度等により、講義の順番を変えることがある。
第15回	収益と費用Ⅰ:収益と費用の認識基準、役員収益(費用)等	第31回	定期試験
第16回	収益と費用Ⅱ:法人税、住民税、事業税等	第32回	
テキスト	プリントを配付する ※練習問題を解くために、電卓(12ヶタ以上)を持参すること。		
参考文献・資料	特になし		
成績評価の方法	授業態度(30%)、提出物(10%)、定期試験(60%) ※授業態度は、授業内容に対する関心度と理解度を質疑応答において確認評価する。		
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	水曜日と木曜日の空き時間		
学生へのメッセージ	数多くの問題をこなすことが簿記を習得する早道なので、配付したプリントの「練習問題」、「応用問題」を、もう一度解き直しましょう。		